

平成25年度学術情報リテラシー教育担当者研修

2013.10.17. 大阪大学 / 2013.11.28. 国立情報学研究所

教員と図書館員が連携する 学術情報リテラシー教育

静岡大学大学教育センター

松尾 由希子

静岡大学 学術情報部 図書館情報課 レファレンス係

渡邊 貴子

本日の発表内容(渡邊)

1. 先生との出会い
2. 協働授業の経緯
3. 学生の文献検索能力の把握
-事前質問紙調査の結果から-
4. 協働授業の構成
5. 実習成功のポイント
6. 協働の意義
7. 2回目以降の協働授業
8. 今後の課題

はじめに

- 本学で行った教員と図書館職員がそれぞれの専門性をいかして、協力して授業を実施した
- その授業を「協働授業」、当日の実習を「論文・新聞検索実習」と称し、一事例としてご紹介する
- 現段階では試行である

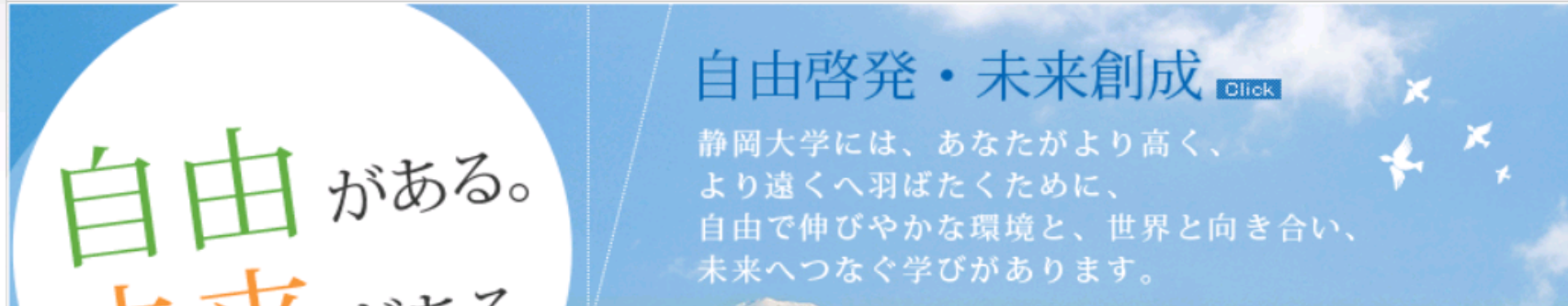
協働授業と論文・新聞検索実習

○協働授業

教員（松尾）と図書館職員（渡邊）が協働で行った授業

○論文・新聞検索実習

協働授業の中で、図書館職員が論文と新聞検索の方法について学生に説明し、行った実習



キャンパス: 静岡(人文・教育・理・農)と浜松(工・情報)

学部: 人文社会科学部、教育学部、情報学部、理学部、工学部、農学部

教職員数: 役員7名教員835名(含附属学校園教員)事務職員322名

合計1,164名 (平成25年5月1日現在)

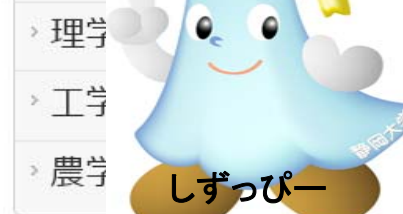
学生数: 学部8,816名、大学院1,491名、専門職学位課程69名、研究生・科目等履修生122名 合計10,498名 (平成25年5月1日現在)

2013 国立大学法人静岡大学概要



2013/09/06 拜四(日)拜フロフム田子推進ノエアで閉
催しました

イベント (更新順) [イベント一覧を見る](#) [カレンダーで見る](#) [RSS](#)



[センター概要](#)[全学教育科目部門](#)[キャリアデザイン教育・FD部門](#)[イベント情報](#)[ニュースレター](#)[就業力育成支援事業](#)

コメントペーパーの利用促進運動展開中！

詳細は[こちら](#)から（キャリアデザイン教育・FD委員会より）

センターからのお知らせ

[平成25年度夏期FD研修会のお知らせ](#) (2013.7.23)

[「静岡大学学内FD企画スタートアップ助成金」募集要項](#)

[大学教育センター研究報告の原稿を募集します！\(投稿締切2013年1月31日\)](#)

[法学教育の分野別質保証講演会「これからの法学教育」\(11/1\)開催のお知らせ](#)
(2012.09.19)

[夏期FD研修会\(9/25・27\)の開催について](#) (2012.08.16)

[非常勤教員向け授業改善\(FD\)支援について](#) (2012.05.22)

[共通教育棟3, 4Fラウンジをリニューアルしました！](#) (2012.03.28)

[就業力GP静岡大学キャリアデザイン・就職支援サポートアプリの紹介](#) (2011.7.20)

【授業アンケート関係のお知らせ】(教員向け)

[平成25年度前学期授業アンケート実施報告書の書式ダウンロードはこちらです](#)
締切: 10月25日(金)

大学教育体制の企画及び調整

教員の教授方法改善のための調査・研究

全学教育科目における授業計画の立案・実施

最新 [RSS](#)

オンライン英語学習システム
ALC NetAcademy2

静岡大学
**キャリアデザイン教育
 推進プロジェクト**

大学生の就業力育成支援事業
 産業界のニーズに対応した教育
 改善・充実体制整備事業

学生
 向け **授業相談**

静岡大学 **GPA**

授業
 担当 **教員名簿**

学内限定情報

教務マニュアル
 (一部抜粋)

学内限定情報

静岡大学
TAハンドブック

学内限定情報

■ 2013/07/02 ■ チューターズルーム@静岡キャンパスの開催

固定リンク | by:webadmin

数学,英語をわからないままにいませんか?

学習サポート(数学,英語,学習方法)

チューターズルーム

チューターには、大学での学びの基礎となる「数学」・「英語」の科目について初歩的な内容、学習方法に関する相談、授業を受けてわからなかった内容に対する相談を受けることができます。一人ひとりの相談に対して、学生とチューターがともに考えます。ぜひ、チューターを活用して大学での学びをスムーズに進めましょう!

7月1日(月)~8月初旬

静岡キャンパス図書館5F

ハーベストルーム

毎週,水,木,金曜日の午後

スケジュールの詳細は以下のURLで確認してください。

<http://web.hedc.shizuoka.ac.jp/tutor/>

ハーベストルーム





サイト内検索

myLibrary
LOGIN

利用案内

学外の方へ

学内資料



静大OPAC(所蔵目録)

SURE:静大リポジトリ

OPAC

SURE



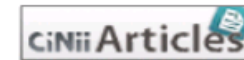
電子ジャーナルブック

データベース

開館カレンダー

9月20日(金)
静岡本館
9:00 - 22:00
浜松分館
9:00 - 22:00

学外資料・論文



(日本の論文)

静岡キャンパスに本館、浜松キャンパスに浜松分館

職員数:課長1名、副課長2名、常勤職員13名、非常勤職員16名、派遣職員(育休代替)1名 合計33名(静岡:23名、浜松:10名)(平成25年7月1日現在)

蔵書数:94万冊(静岡)28万冊(浜松) 合計122万冊(平成24年度)

入館者数:24万人(静岡)17万人(浜松) 合計41万人(平成24年度)

静岡大学附属図書館概要 2013

SURE
最新登録
コンテンツ

静岡県内のサポーティング・
インダストリー

清川メッキ工業株式会社ヒ
アリング調査報告

戦略論における戦略の焦点
に関する一考察

成長中小製造企業にみる事
業の再構築のマネ

グローバル化による日本の
中小製造企業の競

アクセスマップ -- サイトポリシー -- 附属図書館例規集 -- olibrary@ipc.shizuoka.ac.jp

静岡大学附属図書館(本館) 422-8529 静岡市駿河区大谷836 phone.054-238-4479fax.054-238-5408

静岡大学附属図書館 浜松分館432-8561 浜松市中区城北三丁目5-1phone.053-478-1391fax.053-478-1392

Copyright(c)1995-2011 Shizuoka University Library. All Rights Reserved.

1. 先生との出会い

知り合いになったきっかけ

- 共通の知り合いだった先生が運営している「リベラルアーツカフェ～静岡の教養～¹」に声をかけられて、参加し、紹介された
- それをきっかけに、情報交換・意見交換をするようになった

2. 協働授業の経緯

全学教育科目²について

■全学教育科目について

■全学教育科目の体系

本学における4年間のカリキュラムには、全学部の学生を対象に開設されている「全学教育科目」と各学部・学科の「学部専門科目」があります。これらの授業は、1年次から4年次まで、学期ごとに履修するように配分されています。学部卒業には130単位以上の習得が必要です。

「全学教育科目」は、静岡大学全体に共通する教育理念・目標に基づいて教養教育と専門教育の有機的連関をもった四年一貫教育をねらいとして設定されています。大別すると、教養科目と専門科目に区分されます。教養科目には、在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための基軸教育科目、各専門分野と有機的に関連させて幅広い教養を習得するための現代教養科目、留学生のための留学生科目、および教員免許等の資格取得に必要な教職等資格科目が設定されています。専門科目には、専門科目の中で全学に共通する教職等資格科目、および理系学部に通じる理系基礎科目が設定されています。必修科目と選択科目等の種別があり、学部・学科ごとに履修の方法・ルールは異なります。

■全学教育科目の区分

大区分	科目区分	科目名
教養科目	基軸教育科目	新入生セミナー
		情報処理
		実用英語
		初修外国語
		健康体育
		フィールドワーク
		キャリア形成科目
		個別分野科目
		学際科目
		現代教養科目
留学生科目		
教職等資格科目	日本語、日本事情	
専門科目	教職等資格科目	教職教養科目
		教職専門科目I
	教職専門科目II	
	学芸員科目	
	理系基礎科目	

セミナーベーシック編

セミナーアドバンス編

この2つの授業で
協働授業を実施

教育の原理

特別活動論

初年次教育①

- 図書館が、全学教育科目²の新入生セミナーの1コマを任せられ、毎年4月から7月にかけて図書館利用セミナーベーシック編（以下ベーシック編）と図書館利用セミナーアドバンス編（以下アドバンス編）という2種類のセミナーを行っている

初年次教育②

- ベーシック編は、新入生セミナーの1コマで、原則として**学部の1年生全員が受講するもの**である
- ベーシック編は、図書館利用案内、シラバスを使って、専門科目の中から受講する講義を1つ選ぶ。選んだ講義のシラバスからキーワードを抜き出し、そのキーワードをデータベースを使って意味等の確認作業、蔵書検索の方法を説明
- グループワークが中心
- ワークの中で検索した図書を開架書架で探す

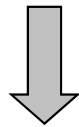
初年次教育③

- アドバンス編は希望者が受講するが、多くが新入生セミナーの1コマで実施されている
- 静岡キャンパスの1年生の約半数が受講している
- レポート・論文作成の概要、文献検索入門（図書・論文）、CiNiiArticles実習、日本語データベースの概要

初年次教育と協働授業の関係

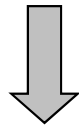
原則、学部新入1年生が全員受講

新入生セミナーベーシック編



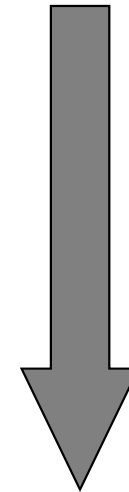
学部新入1年生の希望する約半数が受講

新入生セミナーアドバンス編



教育学部以外の学部の教員免許取得希望者の2年生以上が受講

教育の原理 特別活動論 (協働授業)



協働授業を行うことになった理由

- 1年生の約半数がアドバンス編を受講しているものの、定着しているとは考えにくい
- アドバンス編の講師を担当して、学生は内容に興味や関心があまりないと感じた
- 図書館が実施しているセミナーがうまく機能していないのではないか？
- 学生の文献検索の現状はどのようなのか？
- 先生方はどうされているのか？

3. 学生の文献検索能力の把握 -事前質問紙調査の結果から-

質問紙調査の項目

- 無記名で実施
- 学年、学部等の属性
- 図書と雑誌の違いがわかるか
- 図書館で実施しているセミナーについて
- 先生から課題が出されたら、まず何をつかって調べるか
- 調査等で困っていることや困ったときの対処法（自由記述）
- 図書館に対する意見・要望（自由記述）

質問紙調査の結果①

- 教員からレポート課題が出されたときに全体の70%近い学生が最初に検索エンジンを使っていた
- 検索をして、すぐにPDFファイルで論文が見られないとその論文は見られないと思っている
- 開架書架にある資料だけで間に合わせている
- 書庫に資料がある場合は、たいていあきらめる
- 図書も雑誌も使わない

質問紙調査の結果②

- 大多数の学生が情報の信頼性や質に疑問を感じている
- 適切にキーワードが選べない
- 思うような情報が見つからない
- 情報の取捨選択ができない

4. 協働授業の構成

協働授業の構成

	内容	担当	実施時期
①	質問紙調査の実施	図書館職員	実習前
②	レポート作成に関する説明	教員	実習前
③	論文・新聞検索実習	教員・ 図書館職員	当日
④	文献検索のワークシート返却	教員・ 図書館職員	実習後
⑤	レポート提出	教員	実習後

①質問紙調査の実施

- 図書館職員が授業に出向き、質問紙調査を実施した
- 質問紙調査を行う目的と趣旨を伝え、属性以外は無記名で回答してもらった

②レポート作成に関する説明

- 教員が授業でレポート課題を出し、レポート作成に関する説明を行った
- 講義の中でプリント「中間レポート作成要項」を配布し、具体的な説明を行う
- 「文献検索のワークシート」も配布し、実習当日までにレポートテーマを決めて記入するよう指示

③論文・新聞検索実習

- 図書館職員が論文と新聞の検索方法について説明
- 説明の後、各自実習
- 説明に使ったパワーポイント資料を配布する
- 文献検索のワークシートには、レポートテーマと実習の結果を記入し、当日提出してもらったそれを教員と図書館職員で確認

④文献検索のワークシートの返却

- 実習後、**教員と図書館職員が確認した**文献検索のワークシートを学生に返却した

ワークシートに目を通すことの意義

- ・理解の程度がわかる
- ・内容を確認し、正誤を学生にフィードバックすることで、学生はそれを認識できる

⑤レポート提出

- 教員へのレポート提出期限は、実習後の約3週間後であった

論文・新聞検索実習の内容①

- 図書館職員が論文と新聞の検索方法を説明
- 説明終了後、グループで1台のタブレット端末を使用し、各自が設定したレポートテーマにそった内容の論文と新聞記事を探す
- 文献検索のワークシートに、レポートテーマと検索した論文と新聞記事(各2件)の書誌事項を記入するよう教員より指示

論文・新聞検索実習の内容②

- 論文と新聞記事の書誌事項は、教員が指示した参考(引用)文献の書き方で記入
- グループ内で学生相互に記入内容を確認させ、当日の授業の終わりに提出させた

実習で配慮したこと

- 内容を簡潔にし、ポイントを絞って教えた
- 短い時間に必要なことを説明するよう努めた
- 図書館特有の言葉を使わずにできるだけわかりやすい言葉で資料を作成した
- 説明で使った資料を配布し、後日再び自分自身で検索できるようにした
- 後日の支援体制を明確にした

5. 実習成功のポイント

①タブレット端末の活用

- 論文・新聞検索実習の特徴のひとつは、**タブレット端末を使用したこと**である
- **グループで検索し、相互に協力し合うことが効果的に働いた**と思われる
- **相互に検索方法等について確認することが、各自の理解を助けたのではないかと、考えられる**

②動機づけ

- 論文・新聞検索実習前に教員からレポート課題が出され、論文・新聞検索実習に対して動機づけがなされた
- 繰り返し論文検索をし、レポート作成まで一連の流れを実際に行ってみた
- 目的をもった検索実習が学生の理解の定着に大きく影響したと考えられる

6.協働の意義

協働の意義

- 教員と図書館職員の専門性をいかし、担当をすみわけて協働したこと
- 教員・図書館職員・学生3者にとって効果的で効率的な授業ができたこと

2回目以降の協働授業

結果報告

○文献検索方法習得の要因

- ①教員と図書館職員によるフィードバック
- ②学習・経験

○86%の学生が2回目の協働授業でも文献検索ができたと回答している

7. 今後の課題

今後の課題

- 附属図書館で行っているセミナー等の見直し
- 文献検索技術の定着の条件を探る
- 協働授業の継続

アドバンス編の見直し①

○見直しをすることになった理由

- 学生の興味・関心がほとんどない
- どうして文献検索技術が定着しないのか？
- 内容が学生にあっていないのではないか？
- こちらの方法に問題があるのではないか？

アドバンス編の見直し②

○見直したこと

- 教員への通知に課題等を課してもらうことを依頼
- 簡潔に、わかりやすく、短時間で
- 教えるポイントを絞った
- 実習内容のテーマを自由にした
- 図書館職員が実習中に席をまわり、できるだけ声をかけた
- 学生を無作為にあて、検索結果を説明してもらう

参考文献

1 リベラルアーツカフェ

<http://liberalartscafe.blog91.fc2.com/> (参照2013-10-2)

2 静岡大学全学教育科目

<http://www.hedc.shizuoka.ac.jp/全学教育科目部門/新規カテゴリ2-5-1/> (参照2013-10-2)

- ・ 渡邊貴子.“学生の文献検索能力の現状報告-教職講義の受講生を対象に”.静岡大学大学教育センターニュースレター.2012-12-4.

<http://www.hedc.shizuoka.ac.jp/ニュースレター/> (参照2013-10-2)

- ・ 渡邊貴子.“教員と職員の専門性をいかした協働の試み：教職科目における協働授業の実践”.静岡大学教育研究.2013, vol.9, p.55-62.

<http://ir.lib.shizuoka.ac.jp/bitstream/10297/7363/1/9-0055.pdf>,

(参照2013-10-2)

- ・ 渡邊貴子.“教員と職員の協働授業による文献検索能力の定着の分析-質問紙調査の結果より-”.静岡大学大学教育センターニュースレター.2013-10-1.

<http://www.hedc.shizuoka.ac.jp/ニュースレター/> (参照2013-10-2)

本日の発表内容(松尾)

1. 育てたい学生像
2. 学生の実態
3. 協働授業における教員の役割分担
4. 協働授業の意義
5. 今後の課題
6. 図書館職員に期待する教育・研究支援

1.育てたい学生像

1.育てたい学生像

(1)担当科目・・・全学の教職科目

2年次 「教育の原理」

3年次 「教育と社会」「特別活動論」

「教育課程と方法」

4年次 「教職実践演習」

1.育てたい学生像

(2) 文部科学省の育てたい学生像

生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材



① 主体的学修に要する時間の確保

- ・事前の準備(資料の下調べや読書、思考、学生同士のディスカッションなど)
- ・授業の受講(教員の直接指導、教員と学生及び学生間の対話や意志疎通)
- ・事後の展開(授業内容の確認、理解の深化のための探究など)

② 生涯学習を前提とした能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換

(例) ディスカッション、ディベート、演習、実習など

1.育てたい学生像

(3) 文科省の目指す教師—教員の資質能力

「**学び続ける教員像**」

「……社会の急速な進展の中で、知識・技能の絶えざる刷新が必要であることから、教員が探究心を持ち、学び続ける存在であることが不可欠である」



これからの教員に求められる資質能力

- ①教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力
- ②専門職としての高度な知識・技能
- ③総合的な人間力(コミュニケーション能力など)

1.育てたい学生像

(4)教職担当者として、育てたい学生像
教職についての後も生涯を通じて学んでほしい。

①情報リテラシーの修得

+

②確かな知識の修得

+

③旺盛な学習意欲(学びを楽しむ)



講義＋学生の能動的学修(アクティブ・ラーニング)

1.育てたい学生像

(5)担当科目の中のアクティブ・ラーニング

2年次 「教育の原理」—中間レポート、授業のカルテ

3年次 「教育と社会」「特別活動論」

—中間レポート(レポートを用いてグループ発表)、
ワークシート

「教育課程と方法」

—ワークシート

4年次 「教職実践演習」(実習や演習中心)

※中間レポート作成のために、「教育の原理」「特別活動論」で協働授業を行なっている。

=文献検索技術を身につけることで、「情報リテラシーの修得」をめざす。

1.育てたい学生像

○「教育の原理」の学びのカルテ

- ・A3 両面に15回の授業分の記入欄を作る。
- ・毎回の授業の終わり10分を使って記入する。
- ・「授業タイトル(自分でつける)」「学んだこと」「考えたこと(思ったこと)」を記入する。

-
- ・90分の授業内容を要約できる。
 - ・得た知識と感想を、わけて書ける。

→**レポートの練習**

※毎回コメントや線を入れて、翌週返却する。

- ・・・多人数授業であり、授業内での相互交流が難しいため、カルテを用いて学生の理解度を確認する。

「教育の原理」の学びのカルテ

※講義当日に示します。

1.育てたい学生像

○アクティブ・ラーニングに対する学生の感想

「特別活動論」でレジュメを作成し、発表を行なった学生の感想

2013年7月に、無記名の質問紙調査を行ない、93名から回答を得た。「グループワーク(レジュメの作成・発表)を行なってよかったと思いますか」の問いに、「よかった」90名、「よくなかった」1名、「どちらともいえない」2名。

「よかった」と回答した学生のコメント

- ・最初は全然やる気がなかったのですが、1回目の発表を終えて、反省する箇所が多数あり、2回目に良い発表ができるよういろいろな思考をめぐらせ、人前で話すとはどういうことなのか理解が本当に深まった。
- ・論文を探す練習にもなるし、他の人とコミュニケーションをとれる良い機会だと思ったから。
- ・レジュメを作るのは面倒くさかったけれど、この作業をしたことで教育活動について色々調べ、よく考える機会ができたのでやってみてよかったと思う。
- ・文献の検索がとても身近なものになって、図書館のHPをよく利用するようになった。
- ・多くの論文にふれることができた。(グループの人から)自分には考えつかなかった発想をきくことができて考えさせれた。意見を出し合うことによって、初めは発表しづらかった意見も最後にはどんどん発言できたこと。そして何より楽しかったです。

2.学生の実態

2.学生の実態

(1) 文献検索に慣れていない

- ・学術図書とそうでない図書の違いがわからない。
- ・論文の検索ができない(9割)。
- ・1年次の「新入生セミナー」を受講しているのになぜ、身につけていないのか？

(2) 文献を探せなくても「やりすごす」傾向

- ・教員や図書館職員に質問しない。

(3) 図書館を利用しない(利用価値をわかっていない)

※レポート課題を出しても、効果がない。



協働授業・・・情報リテラシーを身につける

3.協働授業における教員の役割

3.協働授業における教員の役割

「教育の原理」を例に

(1)レポートの「書き方」について説明する

(論文・新聞検索実習の前週)

レポート作成のためのプリント(A3両面 1枚)

①レポートテーマの設定(具体的に設定させる)

具体例をあげる。(例)生徒目線で命を教える農業高校

②レポートの構成

1段落・・・テーマ、新聞記事を用いて、テーマ設定の動機について、まとめる

2段落・・・テーマに沿って論文の情報をまとめる

3段落・・・2段落をふまえて、自分の意見を述べる

3.協働授業における教員の役割

③字数

④モデル

前年度までの学生のレポート(作成者の許可を得たうえで)

⑤注意事項

論文と新聞を読む、参考文献の書き方、3段落に自分の意見を書く、だいたいの比率など

⑥提出日

⑦レポートの採点ポイント

原稿用紙の正しい使い方、新聞記事のまとめ方、設定したテーマと調べた情報に矛盾がない、参考文献の明記など

レポート作成の説明プリント

※講義当日に示します。

3.協働授業における教員の役割

(2)ワークシートの配布(論文・新聞検索実習の前週)

ワークシートの構成

- ①レポートのテーマ・・・協働授業当日までに書いてくる。
- ②レポートで使用する論文・・・協働授業当日に記述する。

参考文献(論文)の書き方の例、検索した論文の出典を記述するスペース、所蔵先の確認

- ③レポートで使用する新聞記事・・・協働授業当日に記述する。

参考文献(新聞記事)の書き方の例、検索した新聞記事の出典を記述するスペース

3.協働授業における教員の役割

(3) 学生の質問に答える。

(論文・新聞検索実習当日)

図書館職員とともに、学生の質問に答え、アドバイスをする。

3.協働授業における教員の役割

(4)ワークシートを確認して、返却する。

(論文・新聞検索実習後)

図書館職員とともに、ワークシートの文献の書き方を確認する。誤りがあれば、チェックマークをつける。アドバイスを書き込むこともある。

誤りを指摘された学生：

- ・配布資料を見直してもわからない場合、教員や図書館職員に質問に行く。
- ・修正して、再提出する。(再提出は任意)

確認を行なったワークシートの例

※講義当日に示します。

4.協働授業の意義

4.協働授業の意義

(1) 図書館職員の専門性の高さをいかす

文献検索の際に学生が困っていること:

テーマに関するキーワードをみつけられない。

→図書館職員の支援:

キーワードを探せるように、配布資料を作成する。

学生の反応:

論文・新聞検索実習により、文献検索をできるようになり、他の授業の課題や勉強にもいかしたい。

4.協働授業の意義

「教育の原理」の学びのカルテにみる学生のコメント

(2013年5月13日)

- ・学内のデータベースは1年の時あまり使わなかったもので、これからは利用したい。
- ・今まで図書館で必死に探していたが、今回の授業でよい方法を知ることができてよかった。
- ・静大の図書館やホームページも様々な使い方ができるんだなと思った。これから積極的に使いたい。
- ・実際に使ったことはなかったが、今回の授業でその利便性を再確認することができた。
- ・渡邊さんの授業のおかげでみることのできない(PDF化されていない論文の意)の謎がとけました。

4.協働授業の意義

(2) 学びを支えてきた図書館職員を「みえる存在」にする

学生の学びを支えるのは、教職員である。

しかし、実際に学んでいる側の学生は、講義を担当することがほとんどない職員について、
どう認識しているか？

(例) 図書館職員

多くの学生は図書館に出向かない。

→図書館職員の専門性について認識していないのでは？

4.協働授業の意義

協働授業

教員と図書館職員が同じ授業の中で、共に学生の指導にあたる。



学修支援者としての図書館職員が視覚化される。(=学修支援者として認識される)

協働授業後：

協働授業前と違い、ワークシートをもってレファレンス係に質問に行く学生が増えた。

4.協働授業の意義

(3) 学生が図書館を使うようになる

多くの学生が図書館を利用しない。

理由：図書館の活用のしかたがわからない。

協働授業後：

- ・具体的な利用方法がわかる。
- ・学習支援者として、図書館職員を認識する。

→図書館利用につながる。

5. 今後の課題

5. 今後の課題

(1) 協働授業の継続

職員は数年単位で異動する。現状は、試行段階であるため、継続は不透明である。図書館と検討していく必要がある。

(2) 環境の整備

多人数授業のため、同時にネットワークにつながられる環境の整備が必要。タブレットパソコンの活用。

6. 図書館職員に期待する教育・研究支援

6.図書館職員に期待する教育・研究支援

(1) 教育支援

- ・授業サポート
- ・学生に対して、レファレンスのしくみをわかりやすく伝えてほしい。

(2) 研究支援

- ・文献の紹介
- ・専門情報入手するためのデータベースの紹介

主な参考文献

1 中央教育審議会『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』(答申)2012.8.28

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm(参照2013.9.25)

2 中央教育審議会『教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について』(答申)2012.8.28

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325092.htm(参照2013.9.25)

・松尾由希子「教員からみる附属図書館職員との協働授業の意義」(web「静岡大学大学教育センター ニュースレター」2013.7.1)

<http://www.hedc.shizuoka.ac.jp/ニュースレター/>
(参照2013.9.25)